



～市議会議員と袋井市の未来を語り～

# フッピートーク2025

Pickup  
2



詳しい内容は  
こちらから

市議会では、市民向けの議会報告会を令和8年1月24日(土)に開催しました。  
令和7年度の市議会活動報告のほか、テーマ別に参加者と市議会議員との意見交換を行いました。

テーマ

## 多文化共生の在り方を考えよう

参加人数 議員 6人 市民 9人

- ▶ 農業、介護、建設といった分野で外国人人材が重要な役割を担っており、地域の産業を支える不可欠な存在となっている。
- ▶ 市の窓口では外国語対応が進められており、ごみの分別、日本語教育、「やさしい日本語」での案内など、生活に直結する分野で支援が行われている。
- ▶ 日本人が海外に触れたり興味を持ったりする機会が不足している。海外の文化や習慣などを知ることは重要だが、多国籍化してすべてを理解することはできない。
- ▶ はがきや回覧板など、紙媒体も活用した「プッシュ型」の情報発信を行い、受け身の外国人住民にも確実に情報が届くよう工夫しては。
- ▶ 日本人・海外ルーツの方を問わず、共に楽しめるイベントを開催しては。



テーマ

## 子育てしやすい袋井市とは

参加人数 議員 6人 市民 9人

- ▶ 若い世代が多く、子育てに前向きな市民が多い。
- ▶ 「待機児童ゼロ」の次は「孤立させない仕組み」が必要ではないか。
- ▶ 子どもの居場所確保のため、学校の長期休暇に対応する、コミュニティセンターや民間施設を活用した地域連携型学童保育があるとよい。
- ▶ 放課後児童クラブへの給食導入に向けた民間との連携モデルを検討しては。
- ▶ 支援情報の伝達手段や展開方法を検証し、情報発信を充実させてほしい。



テーマ

## 自然環境を守るための持続可能な取組

参加人数 議員 6人 市民 10人

- ▶ さまざまな環境活動団体があって、いろいろな活動をしている。袋井市は自然に配慮していると感じる。
- ▶ 自然環境の維持と開発行為は相反する。自然災害も多く発生しており心配である。
- ▶ 小笠山の自然を残したい。人と自然の共存が必要である。
- ▶ 子どもが自然の中でいきいきと遊べる場所が欲しい。
- ▶ 温暖化対策の達成状況と課題を見える化し、市民と共有することで若い世代に伝える仕組みが必要では。

